



あまぬまだより

<http://www.suginami-school.ed.jp/amanumas>

杉並区立天沼小学校



理解から行動へ

校長 中島 豊

綿密な構成と卓越した画力による、スケールの大きなハードSFストーリーを得意とし、手塚賞も授賞した星野之宣さんという漫画家があります。作品の舞台は宇宙や近未来、古代と縦横無尽ですが、彼の描く地球外で生まれ育った新人類と呼ばれる人間は、手足が細長く、頭部も大きいです。重力の少ない惑星や恒星間宇宙船内で誕生し育ったという設定で、環境が生物に与える影響を巧みに表現していると感じます。

環境による人類への影響といえは、現在進行中で対応がままならない福島原発の事故がすぐ頭に浮かびますが、世界的な環境問題としては、二酸化炭素等の温室効果ガスの放出などによる地球温暖化やフロンガスの排出によるオゾン層破壊、開発に伴う生態系の破壊等があります。

これらに共通することは、影響が国境を越えて波及する点です。ある国で環境保護のための法整備を進めても、他国の環境破壊の状況によっては被災してしまうこともあり、地球環境問題は国際的な枠組みでの対策を必要としているのです。

1970年以降、ストックホルム会議における人間環境宣言をはじめ、人間環境の保全と向上に関し、世界中の人々を励まし導くための共通の見解と原則が定められた国際合意・声明が数多く提言されているのをみても、その緊急性が理解できます。

話代わって、エコスクール(環境共生型学校)。この言葉は、「環境に配慮した建物(学校)」の意味ですが、ハードと同時にソフト面での取り組みも含んでいます。天沼小の新校舎(ハード)は、すでにご案内の通り、

- ①校庭(芝生)・壁面等の緑化、屋上の緑化・屋上プールの設置、ペアガラスの採用による熱負荷の抑制
- ②バルコニーの設置による日射遮蔽
- ③日中の自然換気と夜間の外気取込(ナイトパーズ等)による躯体蓄熱の低減
- ④クールヒートトレンチ(取り込んだ空気を地下に通し、循環させる空気の温度を一定に保つシステム)やソーラーコレクター、外断熱による

空調負荷の低減

- ⑤太陽光・風力発電による節電
- ⑥光の塔からの自然採光
- ⑦トイレ洗浄水や植栽の灌水等への雨水再利用等の環境に配慮した設計が施されています。この校舎と関連させて、今年度は、環境教育の全体計画づくりや実践活動に取り組むこととなります。

例えば、なぜ、バルコニーの設置が涼しい環境を作ることになるのでしょうか?

古くから西殿の寺院や日本の寺社建築には、回廊を伴っている様式が見られます。実は、建物の周辺に日陰部分と風の通り道を作ることにより、内部の熱負荷を抑制する効果があるのです。

- こうした事実にも気付かせつつ、
 - ・ごみの減量…紙などの可燃ごみは資源として再利用するとともに、給食の残さの減量を図る。
 - ・節電…日中不要な箇所の電気を切ったり、空調の利用を制限(夏季は30度以上、冬季は10度以下)したりする。
- などを進めます。

6月は環境月間にあたるため、区でも都教委と連動して「CO₂削減アクション月間」を実施します。これは、チェックシートを用いて環境に配慮した実践行動を促進するもので、本校では4年生が中心となって取り組みます。また、5年生は「キッズISO14000プログラム」として、家庭内で電力・ガス・水道などの消費やゴミのリサイクルなどの現状を調べることで環境意識を高めて、環境マネジメントに挑戦します。

さらに、本年度は環境委員会を「節電委員会」として位置付け、削減量の算出や集計に留まらず、積極的な全校への働きかけを行います。

このような活動を通して、児童に環境保全に向けて自分達にはどんなことができるのか、どうしたら、具体的な行動になるのかを考えさせ、頭で理解するに留まらない、行動する地球人としての資質を高めていきたいと思えます。

..... 今月の目標

生活

清潔に過ごしましょう

保健

歯を大切にしましょう

給食

清潔に気をつけて
食事をしましょう



給食調理民間委託のスタート！ 栄養士 増田 圭子

調理が民間委託になって何が変わったか。ただ調理する人間が変わっただけで、子供からみてメニューや外見上は特に変わったことはありません。しかし、給食室内ではとても大きな変化でした。昨年度迄は、杉並区立の学校で何年もの経験を積み重ねた区職員の調理主事だったので、食品と分量が入った献立と前日の簡単な打合わせだけで給食ができていました。委託になった4月初めには「みぞ汁の味がちょっと今までとはちがう」という声も聞こえました。作る人が変わると、同じ材料、分量でも微妙な火加減や手順で味が変わってしまうのです。現在は、子供たちが慣れている味になるよう調理手順を細かく書いた指示書を作成し、調理員との打合せを重ねています。香辛料を別に炒めて分量を加減しながら入れるなど、いろいろな工夫をしてきた結果、今ではこれまでの天沼小の味に近くなってきました。

今年度からセンターコートでの会食、学年毎のお弁当給食ができます。お弁当を持って太陽のひろばや風のテラス、芝生の校庭で食べられる日を子供たちは心待ちにしています。これからもおいしく、楽しく安全に食事ができるように、スタッフ全員で協力して給食を作ってまいります。

校内研究

研究主任 寺田 良太

本年度は、昨年度に引き続き、研究主題を

規範意識を高め、よりよい生き方を主体的に考える児童・生徒の育成
～小中連携による、道徳、生活指導及び体験活動の実践を通して～

として、研究の成果を天沼地域に発信していきたいと思っております。

区で実施している学力調査・意識調査の結果を分析すると、規範意識を子供たちに身につけさせることは、学級経営はもちろん、学力向上にも大きくつながることが分かります。

また、規範意識は、人間関係を構築させるために必要な、「相手を思いやる心」を育てる基盤ともなると考えられます。

そこで、道徳の授業では「思いやり」に関する読み物資料を多く取り入れ、道徳的価値の定着を図り、日本の伝統・文化理解教育やキャリア教育といった体験活動を通して、実践(日常)の場面で規範意識を発揮できる力を身につけさせることを目指して研究を進めていきます。

平成24年2月7日(火)には、杉並区の教育課題研究指定校として発表会を行います。地域や保護者の皆様にもご協力していただきながら研究を進めていきたいと思っております。先月、小中同時に配布した研究広報誌「ALPS9」もぜひご覧ください。

天沼小の魅力 vol.3

転居した頃には気づかなかった天沼小の校庭の草花が、春から初夏へと形や色を変えて花開いてきました。昨年、町会の方々の協力により飼育・栽培委員会を中心に進めてきた花咲けプロジェクトのプランターにもたくさんの花が咲き誇っています。

そのほかにも、コデマリ、シバザクラ、ジュウニヒトエなども可憐な花をつけています。校庭は、いろいろな草花たちの変化に富んだ形や成長を観察するのに、とてもよい環境です。校内の植物の自然の姿を、季節を追って楽しんでいけるようにしていきます。



コデマリ



ジュウニヒトエ



シバザクラ



花咲けプロジェクト

校庭の草花たち☆